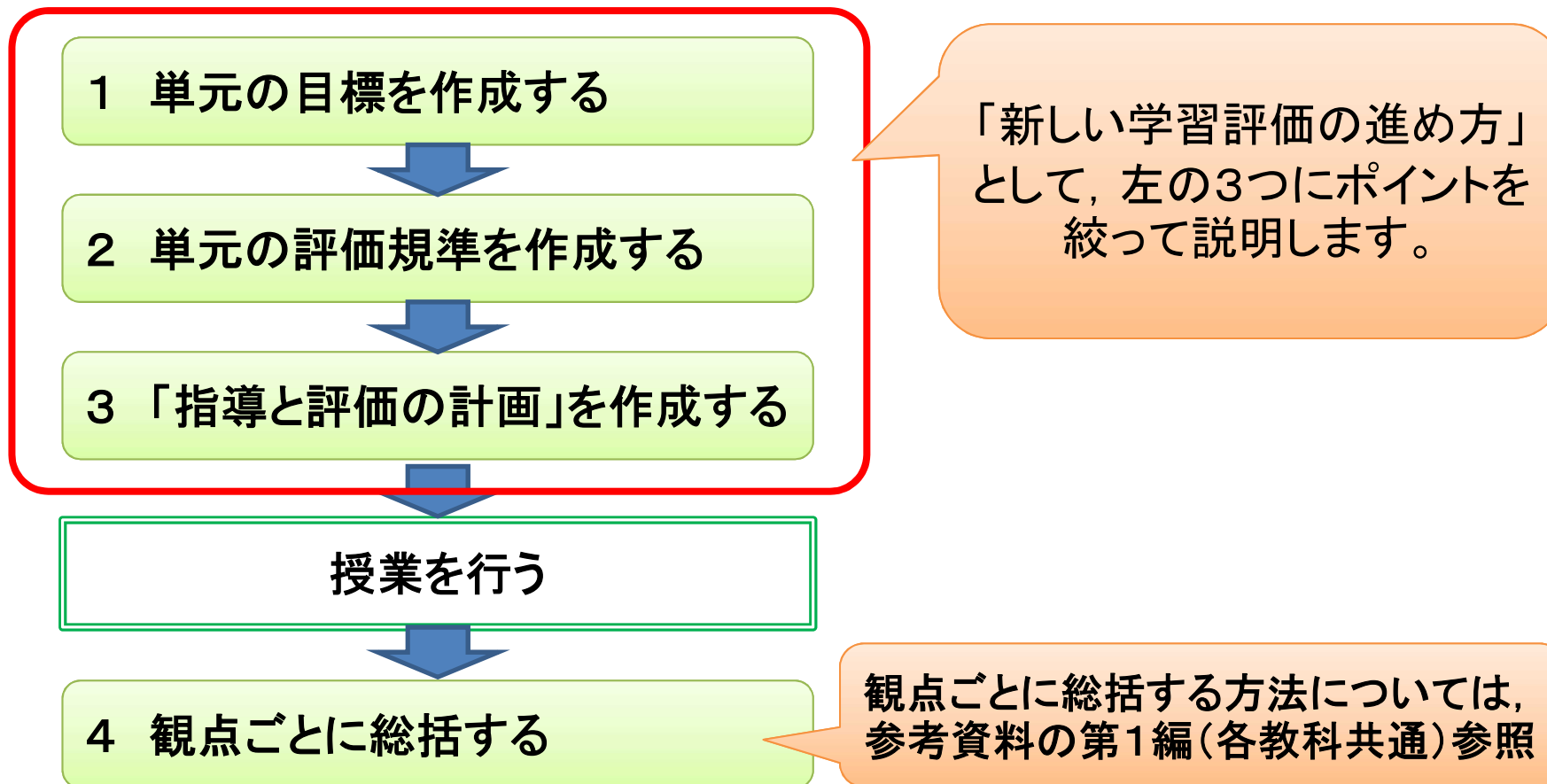


国語科の単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえ、以下のように進めることが考えられます。



ポイント① 単元の目標を作成する

Step1
単元で取り上げる
指導事項の確認

- ・年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認する。

Step2
単元の目標と
言語活動の設定

- ・Step1で確認した指導事項を基に、以下の3点について単元の目標を設定する。
- ・単元の目標を実現するために適した言語活動を言語活動例を参考にして位置付ける。

- (1)「知識及び技能」の目標
- (2)「思考力, 判断力, 表現力等」の目標

基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。

- (3)「学びに向かう力, 人間性等」の目標

いずれの単元においても当該学年の学年目標である「言葉がもつ価値～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。

教科の目標

	小学校
	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
「知識及び技能」	(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
「思考力、判断力、表現力等」	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
「学びに向かう力、人間性等」	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学年の目標

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
「知識及び技能」	(1) 日常生活に必要な国語の	(1) 日常生活に必要な国語の	(1) 日常生活に必要な国語の
「思考力、判断力、表現力等」	<p>【第1学年及び第2学年の目標】 言葉がもつよさを感じるとともに楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p>		
「学びに向かう力、人間性等」	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

読むこと

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
読むこと	(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
構造と内容の把握	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	ア 段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えること。 イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想、意見などの關係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 イ 登場人物の相互關係や心情などについて、描写を基に捉えること。
精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
考えの形成	共有	共有	共有
言語活動	イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

【第3学年及び第4学年の指導事項】

目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること
 ができる

知識・技能

思考・判断・表現

ポイント② 単元の評価規準を作成する

「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた単元の評価規準の作成

〔知識及び技能〕

- (1)言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2)情報の扱い方に関する事項
- (3)我が国の言語文化に関する事項

知識・技能

〔思考力、判断力、表現力等〕

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

思考・判断・表現

【「思考・判断・表現」の評価規準】

評価規準の冒頭に、当該単元（や題材）で指導する一領域を「（領域名を入れる）において、」と明記する。

領域を意識して授業を行う

【2 観点に共通】

当該単元（や題材）で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その文末を「～している」として、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

年間計画の必要性

主体的に学習に取り組む態度

該当する指導事項はない。

評価規準の文言を作成する。

【作成の考え方】

- ①知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と，
② ①の粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。文末は「～しようとしている」とする。
- 下記③，④に示したように，特に粘り強さを発揮してほしい内容と自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考えて授業を構想し，評価規準を設置することが大切。

①粘り強さ〈積極的に，進んで，粘り強く等〉

②自らの学習の調整

〈学習の見通しをもって，学習課題に沿って，今までの学習を生かして等〉

③他の2観点において重点とする内容（特に，粘り強さを発揮してほしい内容）

④当該単元（や題材）の具体的な言語活動

（自らの学習状況の調整が必要となる具体的な言語活動）

〈作成例〉 〈第1学年及び第2学年の「A話すこと・聞くこと」〉

ア 夏休みの思い出について報告したり、それらを聞いて感想を記述したりする活動を通した指導の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>(1)身近なことを表す語句を増し、話や文章の中にも、言葉には意味に句のまとまりがあること、語彙を豊かにすること。</p> <p>(〔知識及び技能〕(1)才)</p>	<p>(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。</p> <p>(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)</p>	<p>で(①)、相手に伝わるよ す順序を考え(③)、学 見通しをもって(②)、紹 うとしている(④)。</p>

指導事項の一部を用いて評価規準を作成した場合

各指導事項の文頭に「領域名」を入れる。

一年間を通して当該学年に示された指導事項を身に付けることができるよう指導することに留意(漏れがないよう、過不足なく!)

文末を「～している」に。

③は特に粘り強さを発揮して欲しい内容

④は、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動

新しい評価の進め方のポイント

ポイント③ 「指導と評価の計画」を作成する

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ)	①「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ②「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもっている(A(1)エ)	①進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、学習の見通しをもって報告しようとしている。

指導と評価の計画(全7時間)

時	学習活動	評価する内容	評価規準・評価方法等
1	○夏休みの思い出を報告するという学習の見通しをもつ。	・児童の伝えたいという思いを引き出したり、教師が自身の思い出を紹介したりして、学習への意欲を高め、学習の見通しがもてるようにする。 ・夏休みの思い出の中から伝えたい思いの強さを手掛かりにして、一つを選ぶようにする。	

本時は、A(1)アに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含めない。

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
2 ・ 3 ・ 4	<p>○「始め-中-終わり」といった話の構成で話すことを確認し、「始め」と「終わり」については先にノートに記述する。</p> <p>○「中」の部分については、第1次で選んだ一番報告したい思い出を詳しく想起して、必要な事柄を四つから六つ程度カードにそれぞれ書き出す。 〈カードの種類(例)〉 ・みたこと ・したこと ・かんじたこと 等</p> <p>○夏休みの思い出を友達に報告するためにはどのような順序で話したらよく伝わるかを考えながら、ワークシート①の該当箇所にカードを置き、その理由を書く</p> <p>○友達と交流した上で、カードの並び順を見直し、その順序で報告しようとした理由をワークシートに書く。</p>	<p>・「始め」には、「いつ・どこで・だれと・どうした」を、「終わり」には、「全体を通して思ったこと」をそれぞれ一文程度で記述できるようにする。</p> <p>・選んだ思い出を詳しく想起できるように、日記や写真等を基に、経験や行動を振り返るように助言する。</p> <p>・事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉を確認し、カードの中で必ず用いるよう指導する。</p> <p>・物事や対象についてどのような順序で説明すると伝わりやすくなるか(例えば、経験した順に並べたり感動の大きさの順に並べたりする)について例を示す。</p> <p>・友達が並べたカードの順序と比べてみたり、友達と相談したりしながら並べル順序を考えるように促す。</p> <p>・最初の並び順から交流後に決めた並び順になった過程を振り返り、交流後の並び順に決定した理由を書くことができるようにする。その際には、並び順が変わる場合と変わらない場合について書いた文例を示す。</p>	<p>[知識・技能]① カード ・事物を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉の文意に沿った活用状況の確認</p> <p>[思考・判断・表現]① ワークシート① ・カードの並び順とその順序にした理由の確認</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度]① 観察・ワークシート② ・他者との交流を通して並び順を見直している様子の確認・分析</p>
※以下、省略			<p>[思考・判断・表現]② ワークシート③</p>